

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394800045		
法人名	株式会社 祐理		
事業所名	グループホームぴいす		
所在地	愛知県豊明市栄町大原31-1		
自己評価作成日	令和5年2月14日	評価結果市町村受理日	令和5年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5
ヒアリング調査日	令和5年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のできること・できないことを見極めて、できないことをあきらめるのではなくどのようにしたら出来るかを共に考え自立を支援している。 ・施設が広くて明るく、トイレが居室内に設置してある。 ・データシステムの「ケアカルテ」を導入し、記録管理を行っている。 ・通信「ベストショット」を通し、ご家族様への情報提供を心がけている。 ・非常勤で看護師を採用しており、医療機関とは常に連携している。 ・四季に合わせた貼り絵や飾り物を作ったり、合同のイベントをフロアの中で開催し、楽しめる。 ・DVDを利用し、おやつの前に健康体操を取り入れ、動き不足の解消に役立っている。 ・2Fと隣接する敷地に放課後等デイサービスを開設し、子供たちとの交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は開設より10年が経過し、周囲には中学校や幼稚園、高校があり地域の子どもや生徒と触れ合える恵まれた環境に立地している。コロナ感染症対策で自粛せざるを得ないこともあるが、面会の継続や日常の散歩、近隣の相撲部屋への外出、高校生とのサッカー交流等を通じて気分転換や精神面でのケアを図っている。家族の協力があれば対策を取りながらの夕食や買い物支援を受け入れ充実した毎日の実現を支援している。理念にある「できる事」を重視し、自発的な行動や思いにできる限り沿った取り組みを心がけている。日課としての体操やヨガ、運動会で運動機能の低下防止に努め、毎年恒例の壮大な作品作りも継続しており、場面を写した写真からは笑顔でいきいきと楽しむ様子が伺える。今後2階や隣接敷地にある放課後デイサービスでの子どもとの交流や認知症カフェの参加で地域貢献が期待され、更なる発展が期待される。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を理解し、それに基づいたケアができるように心がけている。 また月ごとの方針をきめて職員トイレに目標を掲示している。	職員は日常の関わりの中で過度に手を出し過ぎず入居者が役割をもって過ごせるよう見守りながら支援している。 職員トイレに掲示の理念に沿った毎月のテーマに取り組み、支援することで理念の実践に繋がっている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の前を通る通学の生徒や近隣の方から挨拶をされたり、文化展のイベントに参加し、交流が図れている。 また、認知症カフェを開き、地域の方との交流を行っている。	町内会に加入している。近隣住民とは日々の散歩や公園で実施されたウォーキングで交流している。地区の文化展への作品出品は恒例となり、入居者と見学に出かけ関係維持に繋がっている。星城高校とのサッカー、花苗植え、夕食イベント等年数回の交流が継続され、地域に根差した事業所となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・研修により知識を深め、開設10年の経験を活かし、地域の方の相談も行っている。 ・近隣の方に運営推進会議の案内したりして周知していたが、今年度もコロナ禍の為、見合わせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・家族等に運営推進会議の開催案内を行い、概要・状況等を参加者に報告し、次のステップにつなげている。 また、意見・要望を伺い、サービスの向上に活かしていると共に意見交換の場としている。	運営推進会議は市担当者、包括職員、家族、職員、入居者が参加している。2ヶ月ごとに対面で開催し、現状報告、イベント内容、事故報告、会長や社長の挨拶のほか参加者から感想を聞いたり、質疑応答の場も設けられている。日常の様子は映像で写し、実情の理解と支援に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議参加依頼と報告書の提出 ・豊明市長寿課とコロナワクチン接種に関する情報共有を図っている。 ・不明な点があれば定期的に市役所に訪問し、相談しに行っている。 ・介護事故があればすぐに報告を行なっている。	市担当者とは書類の提出で出向いたり、電話で相談でき協力関係が構築されている。尾三地区事業者との繋がりを持ち、リモートで研修にも参加している。地域包括支援センター職員が運営推進会議に年数回参加しており、欠席の場合は議事録を郵送している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・全体会議で研修の場を設け、拘束のないケアに取り組んでいる。 ・新聞や業界からのFAX等に関連内容の記事の掲載があれば、回覧し啓蒙している。 ・安全のため拘束の必要性が在れば、家族の同意を取った上、行うようにしている。	会議の中で研修を実施し、職員は身体拘束の内容を正しく理解し学んでいる。玄関の施錠やずり落ち防止のための車いすのベルト着用、ベッド柵の使用などは安全面を考慮しての対策であることを家族に説明、同意のもと行っている。言葉の問題は気付いたときに都度注意をし、意識付けを図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・令和6年4月に委員会開催の義務化が図られるのでそれまでに組織を構築する。 ・利用者の身体に変化がないか入浴時に皮膚観察に常に気を配り、介護記録やヒヤリハットで確認。 ・防犯カメラをフロアに設置し、防止に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> パンフレットを見て理解したり、全体会議で議題として取り上げる。 自主的に研修会等参加出来るようにしている。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> 契約時に内容を説明し納得している。 疑問等は丁寧に答えている。 時間を作って家族と面談している。 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議等で行っている。 要望は、全体会議でも共有が行われている。 ご家族が面会に来た時に聞くよう努めている。 意見に対してはすぐに運営に反映できている。 	家族の面会時に近況報告を行い、意見や要望を聞き取っている。個人的なことは直ぐに対応を図り、内容により職員に周知し検討、改善に努める場合もある。施設より日常ケアでの気づきを家族に相談や提案をして個々に合ったきめ細やかな支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の全体会議、2ヶ月に1回の部門別会議で意見・提案を吸い上げている。 その都度意見を聞き、対応している。 	職員の意見や提案は日常的に、また会議や面談の中で聞き取り、反映させることで意欲向上に繋がっている。環境整備にも配慮しており、備品の導入も会社と相談しながら対応し、シフトの希望にも沿うよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 県内の最低賃金(986円)に合わせ、パートスタッフの賃金を引き上げた。 個々の意見に耳を傾け職場の環境を良くしようとしている。 融通がきき、子供がいても働きやすい環境 代表・管理者とは信頼関係が築けている。 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> 各職員に担当をもたせ伸ばせる環境づくりになっている。 正社員は、人事評価表により振り返りを定めている 社内研修を年間計画に基づき毎月行なっている 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを作成し公開している。 市内同業者の集まりや県内のグループホーム連絡協議会に加入し、交流する機会をつくらせている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・基本情報、入居者の面談も実施されスタッフ間でも共有している。 ・センター方式の心身シートを導入し更新もしている。 ・利用者の目線に立って傾聴している。 ・コミュニケーションを取る事を心がけている。 		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の要望・関係づくりに努めている。 ・通信ベストショットを発行している。 ・施設に家族がよく来訪したり、電話での問い合わせに応じている。 ・家族の訪問時には必ず会話をして近況報告をしている。 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング以外の月にも必要に応じサービスを見直している。 ・家族に情報をもらいその方にあったサービスを提供に努めている。 		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人のできることはして頂き、困ったときは職員が支援をして関係を築けている。 ・介護するばかりではなく利用者からも教えてもらい良い関係づくりができています。 ・できること・できないことを見極めて、出来ることでの役割を提供の工夫をし、共に生活を指す。 ・言葉使いには注意している。 ・和やかな生活が送れる場面づくりをしている。 		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者・ご家族を交え話ができる。 ・ご家族の要望や小さな変化や施設側の考えも提案し、本人を支える関係を築いている。 		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言時を除き、面会の制限はしておらず、なじみの方の来訪等受け入れている。 ・なじみの美容院・行きつけのお店を訪れ、買い物等を行う。 ・希望の出ない方の支援が課題と思われる。 	緊急事態宣言時以外は友人の居室での面会を受け入れ馴染みの関係継続を支援している。家族からの電話の取次ぎや家族との手紙のやりとりも希望に応じて対応している。自宅への帰省やお墓参り、法事は家族と相談しながら関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・協働で作業してもらえるように努めている ・相性の良さを把握して食卓テーブルの席を配慮 ・共同スペースのフロアで和気藹々過ごしている ・入居者様を交え、孤立しないよう合唱・ゲーム等を行ない交流を図っている。また、目や耳の不自由な方との接し方は、ボード等工夫し出来てい 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本年度5名退所されています。 逝去された方、他の施設に入られた方もみえますが、他の施設に移った場合は、家族や相談員から状況を聞いたり、相談等があれば支援を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・センター方式を活用して把握に努めている ・ご本人の思いを大切にしている。 ・ご家族の要望も聞き、計画を立てている。 ・日々のサービスの中でも把握している。 ・一部の利用者は、困難である。 	入居時に利用者や家族からの情報をセンター方式シートにまとめ、職員全体で共有して希望する生活実現に向けて支援している。利用者に話し掛け傾聴する事や、意思疎通困難な場合は言動や反応から思いを推し量り、記録や申し送りで職員間で情報共有して支援に反映する様努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・センター方式生活史を活用して把握に努めている。 ・ご家族の要望も聞き、計画を立てている。 ・介護記録から把握している。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の出勤時に申し送りを行ない、その日の体調を確認している。 ・自己主張できる方との差を感じている。 ・できることやしたいことを表にしている。 		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・介護計画・モニタリングは着実にやっている。 ・ケアマネが介護職員と全体会議に意見交換し、情報収集した内容を反映させ、3ヶ月に1度プランの見直しをしている。。 ・ご家族の意見も反映されている。 	介護計画は、3か月毎のモニタリングを実施し職員間で評価し日常の様子を反映した介護計画を作成している。家族には薬の検討や大きな方針転換時には丁寧に説明をして同意を得ている。身体の状態の変化があれば都度見直し、現況に合った支援計画を立てている。重度化や医療方針に関わる場合は主治医や看護師に意見をもらい連携を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアカルテを活用し、日々の食事量・水分量・排泄・バイタル等記録している。 ・重要事項は赤字で表現している。 ・その日、その日の様子を職員で共有し、カンファレンスに活かしている。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・その時・その人に応じた柔軟な支援を行なっている。 ・希望される方に訪問マッサージを利用していた。 ・重度化やホームでの生活が困難な場合、他の施設を紹介している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	がりを大切にし入居後も、面会・電話・手紙等で関わっていきよう対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な内科・歯科往診の対応出来ている。 病院希望にも個別に対応ができています。 かかりつけ医等の受診支援は、ご家族の協力を得て的確にできています。 職員の質問にも的確に答えてもらっている 	入居時に利用者や家族の同意の下、協力医へ移行している。主治医とは緊急時は24時間相談可能とし、往診は2週間毎だが毎週来訪がある為、利用者の安心に繋がっている。以前の専門医や眼科、耳鼻科等への受診は家族対応もしくは通院支援を行い、主治医への報告や必要時の書類準備はホームが中心となり医療連携を図っている。月1回の訪問歯科、月2回の口腔ケアの体制も整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> こまめにカルテから情報を拾い、スタッフから話しを聞き、入居者様の健康状態を把握することに努めている。 受診が必要と判断したときは、主治医・ご家族と調整を取っている。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 紹介状を書いていただき、往診から入院になったケースもあり、病院のケースワーカーとも密に連絡がとれた。 退院の把握や食事の方法等を主にきくことができた。 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 入居時に終末医療に関してご家族に意思確認では行っている。 ご家族が望めば、看取り対応を行っていく。 重度化した場合はできる限り施設でみれるようにしたい⇒終末期の研修を行った。 職員が行なう支援の統一に不安はある。 	入居時に重度化や延命、看取りについての意向の確認を行っている。状態の変化時には主治医や看護師との話し合いの場を設け、その都度家族の意向に添った支援の方針を立てている。看取りの際には主治医や看護師からの指示の下、利用者が穏やかに安楽に過ごせる環境を整え、職員全体で取り組む体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> 急変時のマニュアルを作成し、事務所に手順書としてあるが、スタッフ間での共有がされていない。 緊急時の対応に関しての研修を行なう。 AEDを備え、事務所に設置してある。 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を定期的に年2回実施している。 豊明市と避難所協定を締結しており、水や食料の備蓄品のほか毛布を確保している他、簡易ベッド・障害者対応トイレ・間仕切りファミリールームを確保し、研修も行った。 	年2回、火災想定での避難訓練、通報訓練を実施した。避難経路を確認し、職員間で問題点注意点を挙げ話し合い、防災意識を高める事ができた。地域住民の参加はないが、防災訓練のお知らせをホーム玄関先に掲示して周知している。AEDの設置があり、アルソック主催でAED取り扱いの研修を実施した。ホームが地域の避難場所の一つとなっているため、地域住民が被災した際の備蓄を管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・常に年長者としての敬意を忘れずに接し、アットホームな雰囲気の中で、尊厳やプライバシーを守る生活が送れるようにしている。 ・ご本人の自尊心を傷つけない様に心がけている。 	<p>管理者は利用者への丁寧な言葉使いや上から目線にならない様に指導し、研修で事例を挙げて話し合う機会を作り振り返りや意識付けをして支援の統一を図っている。また、利用者同士が口論でプライドを損ねない様に職員が見守りや間に入りトラブルにならない様な環境作りをしている。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が選択できるような言葉かけをしている。 ・決めることが難しい時はクローズな質問をしている。 ・職員間で共有支援している。 ・細かいサインを見逃さないように心がけている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個々のペースに合わせている。 ・日課は決まっているが、なるべく本人のペースに合わせる。 ・日常の中で自己決定ができるように努めている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の意思を尊重、その日の服を選んでいる ・買物と一緒に掛掛け、気に入った洋服を選んで購入、外出時にも着ていく服を選んでいる。 ・2ヶ月に一度理美容の訪問がある。 ・メイクをされたい方には、手順を教えている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の会話から好みを聞いたり、苦手な食べ物は品を変えたりしている。 ・食材も豊富に揃え喜んで貰えるようにしている ・出来る方には、盛り付け・配膳を手伝ってもらい一緒にキッチン内で炊事・洗い物を行なえる環境を作っている。 	<p>その日にある食材から献立を立て、季節を感じる食事の提供をしている。利用者のリクエストは献立に取り入れて、希望を叶えている。正月や節句、クリスマス等のイベント食やおやつレク等、食を楽しむ機会を設けている。利用者は食材刻み、盛り付け等の準備から、下膳、食器洗い等の後片付けまで出来る事を行い、家事を通じて協働関係を深めている。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<p>把握をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水分、食事が少ない方には、スタッフが声かけし、摂ってもらう働きをし、ウォーターメイトを活用。 ・個々に食形態を変え、食介の必要な方には、職員が対応している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問歯科・口腔ケアの定期的な訪問を受けている。 ・日々、毎食後の口腔ケアが出来ている。 ・ご本人に応じたケアを行っている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 排泄表を記載して行動パターンを把握し、誘導している。 自尊心を傷つけないように、時間・場所を考え誘導している。 朝・夕の申し送りをすることで排泄の確認をする。 できる限りトイレの便器で排便・排便の支援 	排泄表を活用し、昼夜問わず利用者一人一人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導し、不快なくトイレで排泄する様に支援している。職員は自尊心を損ねない声掛けに配慮して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 排泄チェック表により排便日の把握をし、申し送りで情報を共有。 体操を行うなど毎日身体を動かしている。 水分も多く取り入れるようにしている。 医師の指示の下、下剤服用の指示をもらっている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 1日おきに入浴されている。 時間・順番等は本人の希望に比較的合わせている。 ADLが低い方もリフト浴で湯船に浸かれるようにしている。 	週3回入浴し、曜日や時間、順番を決めず利用者の希望に添い、その日の気分に合わせて入浴支援している。自立の利用者にも職員が必ず見守り、重度化した利用者には職員が二人体制でリフト浴で入浴を叶え、安全面にも配慮している。入浴剤やゆず湯等で、入浴を楽しむ工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 布団を定期的に干し、シーツは定期的に洗っている。 眠ったまま・起きたままにならないように生活リズムに気を配っている。 声掛けを多くして気を配っている。 日中でも疲れている方は休んでもらっている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 朝・昼・夕と薬の箱を分け誤薬がないようにしている 服薬するまで、そばについてみている。 複数の職員で薬のセット状況を確認している。 処方箋一覧表で服用薬を把握をしている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の会議での見直し、日々職員同士がこうしたいと話している環境にある。 趣味や昔したことを参考にできることの可能性をひろげていくようにしている。 役割の分担が特定者に片寄ってしまう。 入居者様が出来ることをしていただいている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で外出も限られ、季節を感じるため、散歩程度実施。 車椅子を要する入居者が増え、その方々の外出支援の機会が少なくなった。 ご家族の協力を得て、外出できている方もいる 	ホーム周辺の散歩やテラスでの外気浴等、日常的に戸外に出る機会を持ち、気分転換が図れる様に支援している。家族の協力で外食や喫茶店、買い物等の外出や年末年始の帰省等を実現している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームで預かり、必要な時にお渡しする。 ・買い物に出掛ける際は自分で支払いができるようにしている。 ・ご自身で支払いをしてもらう時もある。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の希望に応じ電話できるようになっている。 ・電話番号が分からない場合は調べてあげる。 ・ご家族・知人からかかってきた電話には、取り次ぎ出してもらっている。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・危険なものは極力置かず、空間が広々しており使いやすい。 ・整理整頓されており、清掃も行き届き清潔感がある ・温度・湿度管理が出来ている。 ・クリスマス・お正月の飾りや毎月のデコレーション作品等季節によって変えている。 ・居室にネームが飾られておりわかりやすい。 	2つのユニットフロア一全体に太陽が注ぎ明るく開放的な共有空間であり、ユニット間の出入りも可能である為、利用者交流も盛んで賑やかな雰囲気を感じられる。壁には季節ごとの製作物を飾り、アットホームで落ち着ける場であり自然体で利用者其々が過ごす風景が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ソファ席・テーブル席等状況に応じ座席を移動ができ工夫されている。 ・ウッドデッキに椅子などを移動し、有効活用に努めている。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅で使用されていた家具・仏壇等身近なものを持ってきている方もいる。 ・居室にトイレもあり、ご家族の面会時をゆったり過ごされている。 ・自由にレイアウトでき、住みやすいスペースを確保。 	各居室に洗面台、トイレを設置している為、利便性の高く過ごしやすい。家具やテレビ等、使い慣れた物や好みの物を持ち込み、写真や製作物を飾り、リラックスして過ごせる居室空間となっている。清掃、換気、温度管理を行い、衛生面にも配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・できることリストを作成して支援している。 ・なるべく歩行状況をつくるようにしている。 ・安全に歩けるように手すりを多くとりつけている。 ・一人でトイレいけるように個室に設置している。 ・スペースが広いので歩きやすい。 		